

令和元年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1690100357
法人名	株式会社 コスモスの里
事業所名	グループホーム コスモスの里
所在地	富山市大江干32番地1
自己評価作成日	令和元年7月19日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページ等で閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人 富山県介護福祉士会		
所在地	939-8084 富山県富山市西中野町1-1-18 オフィス西中野ビル1階		
訪問調査日	令和元年8月27日	評価結果市町村受理日	令和元年9月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<ul style="list-style-type: none"> ・家庭的な雰囲気を保つよう心掛けています。 ・今までの生活が継続できるよう自立を促しながら支援しています。 ・過去3年間で5名の方の看取りをさせてもらい、スタッフ間でも自信をもって、その方の人生の最期を支援することができるようになりました。 ・地域と密接にかかわれるよう14歳の挑戦や納涼祭等に積極的に関わっています。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>理念に基づき家族や地域のつながりを大切に、利用者の暮らし方の希望・意向に沿ったサービス提供が行われている。「利用者様への正しい言葉遣い」を毎日唱和し人格やプライバシーに配慮したケアの実践・身体拘束廃止委員会や研修で拘束の理解を深め拘束をしないケアの継続や協力医、訪問看護と連携を図り「看取りケア」の実施など内部（年4回）・外部研修を通じ、職員の質向上に力を入れている。年4回家族会の中での昼食会、季節を感じる遠足や交流・利用者の希望を取り入れた誕生会や外食を企画し楽しみを共有している。利用者一人一人の身体状況に応じ、座ったまま入浴できる特殊浴槽整備・利用者のできる家事を生活に取り入れるなど、利用者本位で安全で快適な生活の提供に努めている。また、一級河川が近く独自の「洪水時の避難確保計画」を策定し利用者と一緒に避難訓練を実施したり、地域包括支援センターから災害時近隣障害者の避難の依頼を受け日々コミュニケーションを図りながら災害時の対応に備えるなど、地域の一人としての役割や交流を多く持つよう努めている。</p>

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します。

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている。 (参考項目：30, 31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

1 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	フロアの壁に基本理念を掲示し、朝の申し送り時には唱和し、スタッフ間で共有しあいケアに迷った時の指針にしている。	理念内容を利用者・家族に解りやすく整理し具体的サービス内容の月間目標を事業内に掲示し、利用者や家族とも共有を図っている。毎朝のミーティングで唱和し職員間で浸透させ、ケア・カンファレンスでサービスに反映しながら日々のサービスにつなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	14歳の挑戦の受け入れや、地域の納涼祭に参加している。 ご近所の方に面会に来ていただき利用者を勇気づけてもらっている。	町内会に加入して、町内の新年会や総会に施設長が参加し町内の方々との交流を深めている。祭事には神輿の来所・町内主催の側溝掃除に参加・校下納涼祭や文化祭の参加・地域の方が主催している朝市での交流・14歳の挑戦の受け入れなど、地域の一員としての役割や交流の機会を多く持っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	14歳の挑戦では、認知症サポーター養成講座を開催し、理解を深められるように努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、運営推進会議を開催し、業務報告、研修報告、地域交流など取り組んでいることを発表している。	会議では運営状況や活動内容を報告し、地域情報の収集や意見・要望を聞き取り、運営やサービスに反映している。委員よりホームの理解を深めたいとの要望があり、ホームの概要やサービス内容の説明や会議内容のアンケート調査・懇親会開催など、会議の充実を図っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括センターとは、日常的に連絡を取り合い相談、助言をいただく関係を築いている。 5月7日には三寿苑にて喫茶えがおに運営推進委員の方々に参加している。	地域包括支援センターとは日常的に連絡を取り合い相談・助言をいただく関係を築き、研修会や行事の参加・災害時に近隣障害者の避難を手助けする依頼を受けるなど、協力・連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は施錠せず、風通し良くしている。 センサーマットを使用している方には、家族に毎月、転倒による骨折のおそれのある方のみ承諾を得て使用している。運営推進会議では毎回その旨説明をしている。	身体拘束廃止委員会・研修を通じ身体拘束の具体的内容やリスクの理解と共有を図り、個々に合った言葉かけや接遇方法を実践しながら、身体拘束しないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	3ヶ月に1回は虐待防止についての内部研修を必ず行っている。 スタッフ間でも、声掛けが不適切なときは、常に注意し合いながら虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年に1回外部に研修に行き、研修報告をスタッフ間で共有しあい、理解している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	制度改正や新しい同意書などが発生したときはその都度、ご理解いただけるまで説明し、疑問があれば、すぐ対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月に1回必ずモニタリングと活動の様子がわかる写真を送付し、様子を伝えている。 また、毎年アンケートをとり、要望、意見、苦情に対応している。アンケート結果は必ず家族会にて集計をしたものを全員に伝えている。	利用者一人一人のホームでの暮らしぶりを写真等に収め家族に送付し報告を行っている。年4回開催される家族会での家族間の交流や年1回家族アンケートを実施し意見や要望等を把握し、面会時のコミュニケーションを通じ、日常的に気軽に相談できる関係を築き、事業所の運営に活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に1回必ず管理者とスタッフが面接している。毎月のミニカンファレンス(申し送り時)を行い、皆の意見を取り入れ、上司に伝え、解決に努めている。	職員は年1回業務を振り返り自己評価や次年度目標を設定し、管理者との個別面談時に意見・提案を言う機会を持っている。管理者はミーティングや日々のサービス提供時に出た職員の意見・提案を、「管理者・主任会議」や直接施設長に報告し運営やサービスに反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	5年、10年勤続者には毎年、賞状と賞金が与えられやりがいや向上心を持てるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホーム協議会開催の研修や市・県で開催される認知症に関する研修には積極的に参加し、内部研修にも活用できるよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	協議会の研修はできるだけ参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	以前に他事業所でサービスを受けていた方にはケアマネジャーより情報交換し、それにそって1つ1つ確認しながら本人が馴染みのもの、困っていることは1つ1つ解決している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前にケアマネジャー・家族・利用者様との担当者会議を開催し、サービス状況の把握をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初面接時に、本人、家族が何を望み、どのようにこのグループホームで暮らしていきたいか傾聴し、支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様と一緒に調理や茶碗拭き、洗濯物干し、たたみをしてご本人からできる役割をしていただけるような環境を整えている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	年4回、コスモス会(鍋・花見・レストラン・温泉)を催し、本人と家族がふれ合える機会をつくっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご友人の面会時には居室でゆっくり談話していただいている。 また、記念写真を撮っている。	家族の協力を得て、自宅への外出・外泊や知人や友人宅の訪問・家族会での交流・家族や友人の面会時はゆっくり過ごしていただくよう配慮し、馴染みの人や場所の関係継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	席替えなどして、良好な関係が保てるよう支援している。フロアで一緒にぬりえをしたり音楽を聴いたりされている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去されても本人、家族が相談しやすい環境作りに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	サービス担当者会議を開催し、家族の思いや希望を聞き取っている。 本人の思いを傾聴し、ケアをしている。	入居時に「サービス担当者会議」を開催し、家族のホーム生活への思い・要望を聞き取り、日々の生活状況を個別日誌(24時間シート)に何気ない表情や言動を利用者自身の言葉で記録し、アセスメントシートに整理し、利用者の暮らし方の希望や意向の把握に努め個別ケアに活かしている。アセスメントシートは6ヶ月ごとに見直している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を使用し、生活歴や馴染みの暮らし方などの把握に努めている。本人の会話の中からもみ取ったり、家族から話しを聞き、新しい情報を24Hシートに記録し、ケアに活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日、ミニカンファレンスで現状報告し、新しいニーズをとらえケアの統一を図っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月、モニタリングを行い、利用者様の写真を同封し家族に送っている。 3ヶ月評価を作成し、家族に説明して同意を得ている。	介護計画は毎月モニタリングを実施し、定期6ヶ月ごと・心身状況変化時には随時見直して家族の意見・要望を取り入れた現状に即した計画が作成されている。また、家族の意見・要望を反映するために、モニタリング状況や評価内容を定期的に説明している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	24Hシートに言動を記入している。事変があれば職員で話し合い連絡ノート、報告書に書き情報を共有しケアの統一につなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われなない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様の状態に合わせて、受診に行くのが困難になったら、家族と相談し訪問診療に変更をかける。必要に応じて病院受診に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	編み物、書道サークルの参加をしている。地域の納涼祭、文化祭にも参加し、14歳の挑戦は毎年、受入れている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1回の訪問診療時、利用者様の健康状態を報告している。家族にも後日、書面で報告している。異常があれば職員が看護師が医師と家族に連絡し指示をもらっている。	利用者・家族の希望する「かかりつけ医」が選択できる。9人中7人が事業所協力医の訪問診療を受けている。受診時の情報提供や必要時の受診同行を行い、適切な医療が受けられるよう支援している。緊急時には、かかりつけ医や事業所看護師の判断で対応し、日々のバイタルや身体状況変化の把握に努め、早めに受診等の対応を行い、重篤化しないよう(身体状況の悪化を減らすよう)努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調、皮膚やバイタルの異常を看護師に伝えて、医師、家族に相談のもと受診や処置を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	退院時、地域連絡室の方と情報を密に連絡を取っている。サマリー等を職員と情報を共有している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族、医師、訪問看護、薬剤師、施設の看護師、介護職員でカンファレンスを行って、情報を交換・共有している。	契約時に、利用者・家族に「重度化した場合の指針」に基づいた支援体制を説明し了解を得ている。利用者の心身状態の変化時には、早い段階からかかりつけ医や家族と話し合い利用者や家族の意向に沿った支援に努めている。また、協力医・訪問看護・職員間での連携・情報を共有し、看取りケアを実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急受診マニュアル、事故発生マニュアルを作成している。いつでも閲覧できるところに掲示してある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、夜間を想定し、火災訓練をしている。災害対策のマニュアルを作成し、市に届けている。水害の場合は、コスモスの里合同の訓練を定期的に行っている。	消防署の協力を得て火災訓練を年2回(夜間想定)実施している。訓練のお知らせを近隣に配布し地域住民の参加をお願いしている。一級河川が近いため事業所独自の「洪水時の避難確保計画」を作成し、同事業所2階建て事業所や近隣盲学校に避難訓練を実施している。	火災時の対策として、地域の消防団と協力関係を築く取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各居室にトイレが設置してあり、プライバシーを保持している。また、トイレ誘導時もそっと声掛けを心がけている。	毎日のミーティングで「利用者様への言葉遣い：～しましょうか？～いきましょう」などの正しい言葉遣いを唱和し、人格を尊重し、プライバシーを確保した言葉かけや接遇方法を確認し合い日々のケアにつなげている。排泄や入浴時には利用者の立場に立ち、特に留意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	昼食後の飲み物や誕生会の食事などどちらも本人の好みの物を毎日必ずお聞きしてから作ったり買い物をしたりしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	買い物や外出に付き添っている。編み物や歌、ぬりえ、新聞等は自由に自室やフロアで楽しんでいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	カラーやカットも本人の希望日を聞いて予約している。身だしなみとしてお化粧をしている。ネイル(好きな方のみ)もしてさしあげている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	後片付け等利用者様のできることをしていただいている。家族会での食事会、春分や秋分の日の手作りおはぎや外食など食べる楽しみが増えるように工夫をしている。	利用者の嗜好やアレルギー情報を業者に提供し、献立・食材を委託している。現場で利用者の出来る事(調理の下準備・後片付け等)を一緒に行い調理し、温かい食事を提供している。利用者の希望を取り入れた昼食や外食・家族会での食事会・季節ごと手作りおやつ・摂食状況に合わせた食事形態など、食事を楽しみになるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分不足の時は好きな飲み物を出して強制的な水分補給にならないように努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯間ブラシで残渣チェックを心がけている。寝る前は義歯を必ず消毒液につけて清潔を保っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	24Hシートにて1人1人の排泄パターンをスタッフ全員で把握出来るようにケアの統一を図っている。尿意、便意がある方にはトイレ誘導を行い、自立につなげている。	24時間対応の排泄チェック表活用や個々の排泄習慣・サインの把握に努め、時間ごとの誘導や声かけを行いトイレでの排泄を支援している。また、居室内にトイレを整備し排泄の自立に活かされている。便秘の解消のため朝冷たい飲み物を提供し、おなかすっきり体操を昼食前に行い、自然な排便行為を促している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食の前の牛乳、お腹スッキリ体操等を取り入れて下剤や薬をなるべく使用しない方法で自然排便に心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	夏季は週3回、通常は週2回の入浴は本人の希望(午後に入りたい人は午後)に沿って体調に合わせた入浴方法(特殊浴槽も使用し)で入っていたいっている。	希望や身体状況に合わせ最低週3回を目安に、職員と1対1でゆっくりと利用者のペースに合わせ入浴している。心身状態に合わせ個別に清拭やシャワー浴・足浴などが行われている。また、座ったまま入浴できる特殊浴槽が整備され、身体状況変化時に対応出来るようになってきている。季節感を味わうため柚子を使用したり入浴剤などを利用し香りを楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼寝時フロア、廊下の電気を落としたり自律神経を整えるCDをかけたりして眠りやすい環境を作っている。眠れない方はフロアに来てもらい洗濯物たたみなどをさせていただき夜間眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	常に看護師とスタッフ間で話し合い、不都合があれば、すぐに医師と相談し、本人の症状に合う服薬に心がけている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家族や本人の聞き取りによってアセスメントした中で現在での本人のできそうなこと、物、嗜好品を常に引き出し、実行している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族と馴染みの美容院へ行ってカラーとカットを定期的に行っている。本人が買いたい物があればできるだけ早期に本人と共に外かけて購入していただいている。	年間行事計画を作成して、花見等の季節を感じる外出や家族会での外出(温泉旅行・外食会等)・日常的に散歩・買い物・外食・移動図書利用・朝市利用(火・金曜日開催)・利用者の希望を取り入れた個別での対応など、外出の機会を多く持ち利用者の楽しみになっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	近所のお店や薬局に出向き、好きな物を買っていただけるようにしている。飴など買いすぎる方は気をつけて見守り、声掛けしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を掛けたいと強く訴えられる利用者様には、ご家族様にもあらかじめ承諾していただき、いつでも電話できるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレの戸に「開いています」「使用中」の札をつけ、間違っ入らないようにしている。浴室はわかりやすいように「ゆ」と書いた紙を貼っている。女湯、男湯の札がある。季節の花や飾りをつけて変化を楽しみ心地よい空間を作っている。	共有空間は明るく、季節の花や利用者と一緒に製作した装飾品・利用者作品(書道等)が飾られている。利用者が思い思いに過ごせるよう適所に椅子やソファが配置され、居心地良く過ごせるよう配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	席は隣同士なるべく気の合う方にしている。利用者様同士で昔のことなど話しておられることもある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビやCDラジカセを持ち込まれたい方は持ち込んでいただいている。仏壇や昔作られた人形など昔から使い慣れた物も持ち込んでいただき居心地良く過ごせるようにしている。家族やスタッフとの写真を飾って懐かしんでもらっている。	居室は広々と明るく、自宅から使い慣れた家具や仏壇・家族写真・好みの装飾品が持ち込まれ、自宅居室のレイアウトを参考にベッド・家具を配置し使いやすさに配慮している。また、各居室内にトイレが整備されプライバシーを確保した環境になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々に応じたできることをしていただき自立した生活を送れるように支援している。皆の見えるところに「できること」を掲示している。		

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム コスモスの里

作成日： 令和1年9月2日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
 目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	火災訓練時、地域住民に参加を促しているが、日中留守の家が多く職員と利用者だけの訓練となっている。	火災や災害を想定し、地域と協力体制を密にする。	町内会の消防団に協力を得て、連携をもちながら、訓練を実施する。 ご近所の方、ケアマネ、ご家族の方々と災害を想定した訓練を行う。	12 ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。